

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

コーパスデータに基づく make
[someone/something] [of/out of/from/with]
[someone/something] の相違に関する考察：特に of
と out of との相違に注目して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): 前置詞, make, out of, from, with キーワード (En): 作成者: 岡田, 啓 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00006249

コーパスデータに基づく make [someone/something] [of/out of/from/with] [someone/something] の相違に関する考察

——特に of と out of との相違に注目して——

岡 田 啓

要 旨

make と of、make と out of の組合せについては、しばしばイギリス・アメリカの辞書でも相互に置き換えられる場合が少なくないとされる。しかしコーパスを詳しく分析することにより、それは間違いであって、脈絡によりどちらかが文体的に勝れており、ハッキリと好まれるということが判明した。むしろ casual な informal な場面でどちらもほぼ同じように用いられることもある。しかし、of, out of の目的語やその目的語の修飾語句を文脈の中で詳しく解析した結果、両者ともまったく同じ感覚で用いられるようなケースこそきわめて珍しいと判った。ここでは具体的な用例をもちいて、両者の使分けを考察する。

キーワード：前置詞、make, out of, from, with

0. はじめに

辞書にはしばしば be made (out) of と説明がなされており、あたかも of と out of が文体的なニュアンスの相違があるだけで、ほとんど同じ意味で用いられている、というような印象を与えている。また、同じような意味で from/with も用いられる。ところがコーパスに基づいて具体的に、どのような場面でこれらが出現するかということを詳細に観察すると、やはりこれらの前置詞（句）の間には明確な相違がある。話し手は脈絡に合うようにいずれかを意図的に選択しているのである。ここではコーパスの例文を informants からの情報に基づき [of/out of/from/with] のように示した。「*」などよく用いられる記号に加えて、文レベルでは正しくとも脈絡の中で文体的にどうかと思われるものには「!」を付けた。また、これまでの研究者の説明、辞書の例文、コーパスからの例文にも [] で他の前置詞の可能性を示した。

これまで最も分かりやすく両者の相違について説明したのは F.T. Wood (1967:353) である。

彼によると：

‘Make’ is used with a number of different meanings, but the principal one is that of ‘create, produce, manufacture, construct’. Here the chief preps are *of*, *from*, *out of*, and *in*.

Of refers to (i) the material used, which still exists in its original form in the finished product (e.g. *a dress made of* [out of/from/??with] *velvet*, *a box made of* [out of/from/??with] *sandal wood*) or (ii) the constituents that make up a mixture or combination (e.g. *a drink made of* [out of/?from/??with] *orange juice, sugar and water*; *a salad made of* [out of/?from/with] *lettuce, tomatoes and cucumber*).

From refers to the source material, from which sth [=something] different is produced: ‘Cider is made from [??of/out of/with] apples’, ‘Bread is made from [*of/out of/with] flour, and flour from [*of/?out of/*with] wheat’.

Out of is often a colloquial equivalent of *of* or *from* (*a box made out of* [of/?from/?with] *sandal wood*, *a tablecloth made out of* [of/from/??with] *nylon*), but more strictly it refers to the conversion of one article into another: e.g. *a dressing-gown made out of* [of/from/??with] *a blanket*. In this sense it is the complementary term to ‘made into’; *the blanket is made into a dressing-gown*, or *the dressing-gown is made out of the blanket*. Cf. the proverb ‘You can’t make silk purse out of sows’ ears.’

Wood は of は「元のままの形で存在している材料」を表し, from は「source material を表し原型をとどめていてはいけない」とし, *Cider is made from apples* なる例を挙げる。『ジーニアス英和大辞典』(2001) も「通例材料がもとの形状をとどめない場合に用いる」と、「通例」と但し書きをつけ Wood 説を支持する。そして, またもや例文はすべて受動態である。そして「(1) of は通例材料が本質的に変化しない場合に用いる。(2) out of は of や from に代用できるが, 材料を工夫して作り変える場合や複数の材料の場合には好んで用いられる」と説明する。*Collins Cobuild English Language Dictionary* (1987) は “If you make something from or out of a material, you manufacture or construct it using that material.” とし, *You can make petroleum out of coal*. や *They used to make their own glass out of sand and silica*. さらに *The Churchill Arch was made from stones damaged in the fire of 1941*. なる例を挙げている。能動形の make sth of sth の例は載せていない。*LDOCE 4th ed.* も *make something of oneself*, *make the most of sth*, *make sth out of sb/sth* など idiomatic なものは挙げているが, make sth of sth (「～で～を作る」) の能動態の例は示していない。

out of, from, of の相違に関して詳しく論じているのは小西 (1976 : 341-3) で, 英国の文法学者や辞書が [of/from] の区別を支持し, *Wine is made from/*of grapes*. とするが, 完全に材料が変質したと言えない場合は両方可能である (*Shoes are made of/from leather*) との説を報告し

ている。また、米語では辞書の定義にすら[of/from]の厳然たる区別がないとも記している。小西も口語では out of は単に of, from に代用されるとし、*This table is made [out of /off] mahogany.* また *Cider is made [out off/from] apples.* なる例を引く。with に関しては、「～を使って」の意であり、「材料のうちいくつかを取り出していう場合」に用いるとし、*You make a cake with eggs.* なる例を挙げる。

さて、Wood の *Out of* is often a colloquial equivalent of *of* or *from* とは一体どういうことを言うのであろうか？ 会話のような informal な場面では out of, 論文のような正式な所では of を用いるのがよいと主張しているのか？ それに「しばしば」out of が of の代わりに使われる、というその「しばしば」の内容が何かの説明はない。筆者がもっとも気になるのは彼の挙げる of の例は全て受動態であるという点である。日本の辞書の解説もほぼ全て Wood 説を踏襲する。

『カレッジライトハウス英和辞典』（1995）にも：

make ... of ～で<...>を作る：This drink is made of [!of/?out of/?from/with/using] orange juice, sugar and water.¹⁾

make ... of ～を<...>にする：He wants to make a baseball player of [out of/*from/*with] his son.

make ... out of ～から<...>を作る；～を<...>にする：She made a jacket out of [*of/?from/*with] my old overcoat. / The coach decided to make a third baseman out of [of/?from/*with] Tom.

のようにパターンと例文を示すが、理論的な説明は一切ない。それどころか、上に挿入した informants の feedback にあるような [of/out of] の差は無視している。が、少なくとも *She made a dress [out of/*of] old curtains.* 程度のコメントは欲しい。『ジーニアス英和大辞典』は make sth from sth [sth は something の略] の書き換えを make sth into sth とし *She made the strawberries into jam.* (= *She made jam from [*of/out of/with] the strawberries.*) なる例を挙げる。しかしこれは問題である。Wood の言うように into は状態変化を表すので、ここは、その反対概念を表す out of を用いるべきである。

また from に関していうと、コーパスには from を用いて明らかに材料が原型をとどめる例が頻出し、informants もそれを自然な英語だと保証する。Wood や彼に倣う日本の辞書はこの点で明白に的外れである。例を見てみよう：

- (1) A long time ago . . . in the prehistoric Stone Age . . . in a prehistoric valley . . . by a prehistoric mountain . . . was a prehistoric town, Bedrock. . . Bedrock had a RocDonald's fast-food restaurant, stores, and offices. It even had a rock quarry, Slate and Co., where workers made houses from [*of/out of/?with] stone. —Universal City Studios, Inc. and Amblin

Entertainment, Inc. (1993) *The Flintstones: the Novelisation*.

上の例では明らかに石という材料で家を建てている。にもかかわらず、of でなく from または out of しか容認されない。文の流れからして「素材」を表す from か「材料+変化」を表す out of 以外 native speaker's intuition に自然に響かないのである。この一例をもってしても、材料に変質がないときには of との説明は正しくないと証明されよう。TRACEY MOGARD... likes big hats made from straw and other natural materials. —英国紙 *The Daily Mail* 1997/05/18. の記事を見てもそれは明らかである。

筆者が用いた数人の informants (米国人・オーストラリア人) はいずれも、辞書の説明に反して、原材料がはっきり認められるときにも from は可能であるという：

(2-1) We made a house [of/out of/from/with] logs.

(2-2) That house over there made [of /?out of/from/?with] logs is quite new.

(2-1) で out of が良くて (2-2) で変に感じられる理由は、(2-2) では既に家は完成した状態で存在しており「変化の過程」に焦点をあてる out of は時間的変化を想像させ不自然だからである。この筆者の主張は informants の賛同を得た。

本論は Wood やその他の辞書の説明がどれほどの妥当性を持つか、コーパスを用いて検証し informants に確認したものである。from, with に関する細かな議論は別の機会に譲り、out of と of の違いを中心に論じる。

周知のごとく into と out of は「状態変化」を表す。into も out of も空間を仕切る「境界」を通過して別の領域に入る／出るというイメージを持つ。*Water turns into ice at 0 degrees.* というとき零度が固体と液体の境界となる。out of は基本的に話し手の意識に、ある状態から別の状態への変化を感じさせる。*I made a fool of [??from/*with] myself.* は全体として「馬鹿なことをした・恥をかいた」という意を表すに過ぎない。他方、*I made a fool out of myself.* では、話者は特定の場面で自分の愚かな行為のため普段とは違う精神状態に変化してしまった、その結果、恥をかいた、と反省している。このようなニュアンスの差については後で詳しく取り扱う。

make [sth/sb] [of/out of] [sth/sb] (sb は somebody の略) において、[of/out of] の目的語は、1) of のみに続く、2) out of のみに続く、3) いずれにも続くの3通りがある。また同じ3) に分類されても、[of/out of] の出現比率で見ると、明白に一方の前置詞を好む目的語があることが分かる。以下にその例を具体的に挙げて論じて行く。

1. make + 目的語に [of/out of] のいずれもが続く場合

前述したように out of はあるもの・状態から別のもの・状態を作り出すときに用いる。即ち「境界」を越える変化／経過に注目する。わざわざ変化を明示する結果、話者にとって特別注

目に値する状態が生じるという基本的イメージを持つ。注目に値する状態はしばしば何か通常とは異なる状態と結びつく。当然ながら、その状況とは特定 (specific) な状況であることが多い。つまり話し手は、日常的には生起しないと見なす状況、非習慣的な状況を描き出したい、あるいは、この状況を特別意味があると聞き手に印象づけたいのである。譬えが適当どうか確信はないが、客観的な立場に立つ医者 *will* を用いて、*Don't worry. Your son will get better soon.* と言うであろうが、それを家に帰って主人に報告する母親は、*I'm so relieved now. The doctor said Jimmy is going to get well soon and we don't need to worry.* と言う。母親は情緒的に息子の容態には深く関わっており、それで *be going to* を用いるのであるが、これに似た相違が [of /out of] の間にも存在する。

1-1 make a fool [of/out of] sb

コーパスには *make a fool* [of/out of] [1474/98] (of が1474例, out of が98例) の頻度でそれぞれの前置詞が現れる。

(3-1) He made a fool of himself.

(3-2) He made a fool out of himself.

二文は共に「馬鹿なことをして恥をかく」という意。*make a fool of* は慣用句としてそのまま使われる傾向、つまり慣用性 (idiomaticity) が高い。出現例1474中1192例 (80.9%) がそうであった。また、*fool* の修飾語としては *such a fool* (57), *quite a fool* (2), *rather a fool* (2) など *fool* を強調するものが多いが、以下に *fool* が修飾される218例の内訳について、修飾語の意味による分類を挙げる (1例しか出てこないものに関しては数の表示はしない)。

(a) 馬鹿の程度・真正性 (authenticity) に言及する修飾語: *absolute* (6), *complete* (76), *total* (48), *utter* (9), *perfect*, *royal* (meaning 'excellent'), *big/bigger/biggest* (14), *giant*, *gigantic*, *great*, *huge*, *colossal*, *fat*, *blasted* 「ひどい」, *crass* 「ひどい」, *bloody* (3), *awful* (4), *damn/damned* (11), *raging* 「途方もない」, *terrible* (3), *prize* 「馬鹿コンテストがあれば入賞するほどの」 (3), *monstrous*, *a little*, *that much*, *particular*, *further*, *worse* (2), *proper* 「れっきとした」 (3), *real* (5), *regular*, *right*, *fine*, *abject* 「見下げはてた」

(b) その他、特別な意味を付け加えるもの: *rude*, *April* (3), *public* (3), *financial*,

他方 *make a fool out of* についての98例のうち *fool* に修飾語を伴わないものは89例 (90.8%) であった。つまりこちらのほうが *make a fool of* より慣用性はさらに高い。修飾語の内訳は *complete* (3), *total* (3) *bigger*, *dammed*, *prize*, *worse* であった。*out of* には上の (b) に相当する修飾語がなく、単に愚かなことを強調するものだけだという統計結果は注目に値する。*out of* のほうが *of* より強意的に用いられ、意味論上「馬鹿なことをした」ことに焦点が絞られる。故に *public*, *financial* など別の概念を付加することに対する抵抗が強いのである。

複数形についての統計は、make fools [of /out of] [180/9] であった。make fools of の180例の内訳は、foolに修飾語を伴わないもの (162), absolute, complete (9), even bigger, such, total (4), pretty good, very great であった。make fools out of 9例のうち fools の修飾語なしが7例、残りは complete, enormous であった。複数形は単数形より、より一般的な陳述となることから「馬鹿の程度」を強調する修飾語以外は出てこない。make a __ fool of (単数) で出てきた public, financial 等、特別の意味を付加する形容詞は、特定の個人に生起する特定の場面に言及する場合に限られ、一般的な陳述にそぐわないからである。

このように make a fool [of/out of] は慣用性が高く、fool の修飾語句は愚かさを強調するものにはほぼ限られる。上の (b) で示したような例は極めて少なく、make a __ fool [of/out of] の形でのみ現れる。次例は publicly make a fool of him と同義：

- (4) Was the girl mad? Surely Gino would never let her get away with making a public fool of [!out of/*from/*with] him? —Collins, Jackie. (1981) *Chances*.

次に make a fool [of/out of] とその目的語における人称との関係を見てみよう。1人称単数と3人称単数の例の統計は以下のとおりであった：

[of myself (440/1474=29.6%)/of me (100/1474=6.8%)] (合計 36.7%)

[of himself/herself (469/1474=31.8%)/of him/her (118/1474=8.0%)] (合計 38.8%)

[out of myself (11/98=11.2%)/out of me (32/98=32.7%)] (合計 43.9%)

[out of himself/herself (7/98=7.1%)/out of him/her (14/98=14.3%)] (合計 20.1%)

上で of に対する比率は 36.7% (1人称)、と 38.8% (3人称) で大した差は認められない。しかし1人称の out of に対する比率は合計で43.9%。3人称の「彼・彼女」を加えたものは20.1%、と大きな開きがある。この差は何に起因するのであろう？これは話し手は「自分」が馬鹿にされていることに関しては情緒的に強く反応 (emotionally involved) するからである。他人事でない故、正常な自分が他人から嘲笑をうける立場に立たされると、普段の自分でない自分にされた (変化) と感じる。その結果 out of が好まれる。他人が自分を馬鹿にする時に用いる out of me (32.7%) が自分の失敗に言及する時の out of myself (11.2%) を大きく上回る事実がこれを証明する。自分の失敗は自分で納得できるので、情緒的反応を示す out of の比率は低くなる。それどころか、逆に失敗を単に事実として片付けようという意識が働くので of を用いる傾向が強まる。また第3者の彼・彼女の失敗は、身内でない限り、他人事に感じる場合が多く、情緒性を表す程度の低い of が好まれる。その証拠に out of himself/herself の7.1%は of himself/herself の31.8%に比べ、はるかに低い。例を挙げておこう：

- (5) Sheila Keenan raised her head. “I tried to stop him. I didn’t want anyone else to get hurt,” she said in a voice that cracked with emotion. “But he wouldn’t stop. He thought I’d give in. Paul made a fool out of [?of/*from/*with] me! —Keene, Carolyn. (1996) *The Nancy Drew*

Files 115: Running into Trouble.

- (6) “What-t?” I said. “I know it’s funny. I know I made a fool out of [!of/*from/*with] myself, but I wish you wouldn’t enjoy it so much!” —Conklin, Barbara. (1981) *P.S. I Love You*.
- (7) He promised me - promised me - that he had no further interest in Czechoslovakia. Then he made a fool of [out of/*from/*with] me. Can’t let him get away with that again. —Dobbs, Michael. (2003) *Winston’s War*.

(5) では、Paul が自分を馬鹿にした状況が詳しく描きだされ、話し手の感情的な訴えが伝わってくる。(6) は、恋人がいると言って自分を欺いてきた女性からそれは嘘だった、と真実を告白された男性がこれまでビエロ役を演じてきたことに腹を立てている。(7) では、話し手は単に自分が裏切られたことを相手に伝え、このままには捨て置かないと言っている。しかし informants は out of も自然だとした。of を用いる本文では単に過去の事実として騙されたことに言及しているが、out of を用いると今なお強く怒っているというニュアンスが加わる。

- (8) I’m so bored right now I could scream. Maybe some totally gorgeous guy will accidentally parachute into the campsite. At least I don’t have to put up with Heather making a fool out of [!of] herself flirting with Ken anymore. —Pascal, Francine. (1995) *Nightmare in Death Valley*.
- (9) She went over the steps in her head all the way home, angry at making a fool of [out of] herself in front of the others. —Quin-Harkin, Janet. (1987) *Two Girls, One Boy*.
- (10) “Now,” he said, “we’re going to fall into each other’s arms to show our faith in each other. ... Bob turned around and let himself go. He fell backward. He had already accepted landing on his butt and making a fool out of [!of] himself. What worse could happen? He kicked off his sandals and fell into Carol’s small but firm waiting arms. —Wells, Patricia. (1969) *Bob & Carol & Ted & Alice*.

(8) で、「私」は Heather が Ken といちゃつくことが我慢できないほど馬鹿げたことだと強く非難している。(9) では「彼女」は皆の前で失敗したことに機嫌を損ね、家に帰りつくまでずっと自分のダンスステップを反省している。しかし、話し手（作者）は彼女が失敗し、不機嫌になった事実のみを客観的に聞き手（読者）に提示しているだけで、彼女がぶざまな状況に陥った「過程」も問題にしていないし、失敗にたいする彼女の怒りに共感もない。それゆえ of を選んでいる。このように、作者が被描写場から一定の距離を保ち、客観的な視点から描写するときには of。しかしながら informants は out of も自然であるとした。out of を用いた場合、作者は主人公に感情移入して、彼女の立場から「腹を立てた」ことを主に描くことになる。informants はこの筆者の意見に同意した。(10) では、話し手は、Bob に感情移入している。具体的に「お尻から床に落ちる」、あるいは「これ以上事態が悪化することはない」など、作

者は明らかに Bob の気持ちを彼の内側から共感をこめて語っている。故に out of。

1-2 make a house [of/out of]

(be) made of wood という言い方はあっても、make sth of wood はきわめて稀。しかし材料そのもの (identity) を問題にする時は out of ではなく of を用いなくてはならない。

(11) Work now proceeded rapidly. Cerdic and the local farmers provided extra labourers and under the supervision of the monks, and using the Roman stones and tiles that lay all around, they built the walls in a modest rectangle with a tiny circular apse at one end. Lacking the skills to attempt anything more sophisticated, they made the roof of [!out of/!from/*with] wood. —Rutherford, Edward (1998) *London, The Novel*.

(12) “I’ll build my house with [?out of/*of/*from] that grass,” he said. “I won’t have to work very hard, and soon I’ll have a good house.” So he got some grass and started to build his house. He made it of [?out of/*from/?with] grass. ...

The second little pig said, “A grass house isn’t very strong. I want to make mine a strong house, so I will make mine of [!with!/out of/?from] wood. There’s some good wood over there near the river. I’ll make my house with [*of/?out of/?from] that. A house made of wood is stronger than a house made of grass.” ...

The third little pig said, “A house of wood isn’t very strong. I want mine to be strong. I want to keep that wolf outside my house, so I will make my house of [!out of/?from!/with] stones. —Johnson, F.C. ed. (1967) “The Three Little Pigs” in *Once Upon a Time*.

(11) は of, out of, from すべて可であるが、純粹に材料だけに言及したいときには of で、ここでは、語り手は、「屋根は高い技能がなくても比較的加工のし易い木材を用いた」と述べているので of を選んでいる。from, out of ではそれぞれ「素材・原料」「状態変化」などが意味の中心となり、間違いではないが、脈絡上意味がすこしずれる。with は *I make a tossed salad with the lettuce, tomatoes, peppers and cucumber*. で例証されるように、積極的に材料を選ぶというニュアンスで用いられるので、ここでは合わない。

(12) は童話『三匹の子豚』の一節。最初の子豚がそこにある特定の草を使って家を作るという時、with が選ばれている。with は単に材料を言うのではない、具体的に存在する材料に「いろいろ手を加えて」というニュアンスが加わる。第2の例は単に of を用いている。何故か？それは最初の子豚が草を刈ってきて「家を建て始めた」という前提が既に存在しているからである。材料が草であることは前提とされており、わざわざ out of を用いて「変化の過程」を強調する必要はない。informants に原文を提示した結果、この脈絡では out of は間違いではないが冗長と感じられるとのこと。第4例では、「河の近くにある特定の木を選んで使用する」

というのであるから、当然 with が用いられている。最後の一匹は、木の家では不十分でより頑丈な石「を材料にして」家を建てるといっている。第5例で of に代えて out of を選ぶと emphatic な言い回しとなり、家を建てる作業が強調されとのコメントがあった。「過程」を強調する out of なら当然である。また、他の材料の代りに積極的に石を選ぶのであるから with も自然な選択となる。

特筆すべきは、能動態の例はわずかに10例だったこと。対照的に (be) made of + wood はコーパス中345例も出現したのである。[(be) made of + wood (345); make sth of + wood (10)]。実に 97.1% が受動態である。コーパスを用いなかった Wood が受身形のみを示したのも無理はない。しかし現代の辞書に至っても能動態の使い方にたいする語法的説明が欠けているは問題である。受動態の「これこれはこの材料からできている」という説明は日常生活で多用されるのでこの調査結果自体は驚くにあたらない。しかしこの比率を次の out of を用いた場合の能動・受動の比率と比べると大変興味深い。

[(be) made out of + wood (27); make sth out of + wood (12)]と受動態のほうが特に多いというわけではないのである。of を用いる受動態は素材・材料を指すだけであるが、out of と共起するときは、素材に加えて、素材に働きかけそれを異なるものに変化させるという意味がどうしても含まれる。

(13) She wondered if anyone ever made boats out of [*of/?from/?with] such wood as this. — Voigt, Cynthia. (1982) *Dacey's Song*.

ここでは「このような木材から船をつくるようなものは誰もいないだろう」と主人公は感じている。out of においては、話し手は人間が何かふつうでない材料を用いているとか、あるいは人間が特別な働きかけを行って何か別の性質のものを作りあげるという意を加えうる。「変化」を表す out of はこの脈絡ではこのような普通でない木材を使うという「意外性」を演出しているのである。

(12) の中に A house of wood という表現があるが、この of は out of や from で代用できない。A house made [of/?out of/from] wood のように made を入れると容認性が高まるが、それでも informants は、この out of には疑問を呈する。理由を聞いてみると、A house of wood は既に完成品 (finished product) であり、その素材に言及するのに out of は母語話者の直感で不自然に感じられると言うのである。完成していれば「変化」を示す必要はないからである。from ならば原材料に言及するので問題はない。

ある informant (女性)によると He made a house of wood. は二通りに読める。つまり、(i) 木材から家を建てた場合、(ii) He made a wooden house. (木の家を建てた) 場合である。彼女はまた『三匹の子豚』の第5例に対して、次のように非常に興味深いコメントをくれた：

“Well, regarding your question, maybe one big difference between ‘made out of’ and ‘made

of' is that 'made out of' sounds like you're making it out of one big (or indivisible) material, e.g. *out of a big rock*, or *out of clay etc.* But "made of" sounds like the house is made of many stones or a lot of grass, among other things.

Like you said though, "from" may sound a bit unnatural in its overemphasis on what the house is going to be made of, just after the author already mentioned the material the pig plans to use to build the house. I'm not sure if the difference has all that much to do with 'out of' indicating the whole process of building; maybe it's more that 'made of' sounds better for smaller, piecemeal material. "

石やレンガなど小さな部分を組み合わせて家をつくるときには out of より of が好まれるのである。これは他の informants も同じ意見であった。

次に受動態の例文を比べてみよう：

(14) In the center of the room was a long wooden table covered with multicolored foodstuffs.

Around the table were ten chairs made of [?out of/?from/with] the same wood. —Godfrey, Martin N. (1990) *I Spent My Summer Vacation Kidnapped into Space*.

(15) It looked like a boot scraper that you clean your shoes on before you go from the stable into the house. Ben has one shaped just the same on his back steps, except that his is made out of [of/from/?with] wood. —Craig, M.F. (1986) *The Mystery at Peacock Place*.

(14) の of は単にイスがテーブルと同じ材質であったことを伝える。これにたいして、(15) では彼の boot scraper 「靴泥落とし」は普通のとは違い、木製であった。木でできているのだから単に of で良いかという、それでは不十分である。話し手は聞き手にたいして「木製」ということが特別に注目し値する情報だと認識させたい、それで、わざわざ out of を用いているのである。

能動態で用いられている「三匹の子豚」の例は単に家をつくる材料を対照するだけなので、out of にする必要はなかったのである。ただ、out of を用いたとしても間違いとまでは言えない。

また能動形では [make sth of A and B] というように、of で 2 つ以上の異質の部分から成り立つ例は 1 例もなかった。しかし、受動態には例がある：

(16) I'm made of [?out of/?from/*with] flesh and blood, not steel, like you.

(17) There's a tanning process in a secret liquid made of [?out of/?from/with] herbs and spices — Price, Willard. (1972) *Amazon Adventure*.

しかしながら注意すべきは flesh and blood にしても herbs and spices にしても日常的に経験される成句であって、話し手の心のなかでは 1 つのまとまりとして受け取られている可能性が高いことである。

out of の例は能動態で頻出する：

(18) She made a salad dressing out of [??of/from/?with] oil and vinegar.

(19) A few weeks ago, when he had been a child, he had made model aircraft out of [from/*of/?with] balsa wood and tissue paper, but, now that he had touched the real thing, sat in the real thing, no way was he playing with model planes any more. —Fowler, Thurley (1988) *The Kid from Locorice Hill*.

面白いのは (18) から受身を作ると *This salad dressing is made [from/of/out of/?with] oil and vinegar*. のように of も可能になること。with を用いるとこの salad dressing の主要な材料が oil と vinegar であると主張していることになり、その他の材料の存在も示唆される。加えて、受動態においては、材料として積極的に oil や vinegar などを選んで dressing が作られるという状況は想定しにくい。つまり with は特別な脈絡設定なしには不自然なのである。

次に総称的 (generic) な例を見てみよう。およそ salad dressing というものは全て oil と vinegar という 2 つの材料から作られる、と言いたいときは *Salad dressing is made [of/out of/from/*with] oil and vinegar*. のように of が最も自然に響く。Salad dressing の generic な特徴に言及する時は正に材料の identity そのものが問題にされる。of が最適なのは当然である。言うまでもなく、specific な状況と結びつく可能性の高い with は不自然であり排除される。

(19) は、ほんの数週間前までは子供らしく木とティッシュペーパーで模型飛行機をつくっていた少年が、本当に人間を載せることのできる手作り飛行機に接して、急に大人になり、模型飛行機に興味を示さなくなった。out of は原材料からの変化を、from は単に原材料のみを言う。

(20) Then they made paper airplanes out of [??of/from/with] a pile of napkins and began sailing them around the room. —Hoh, Diane (1985) *Loving That O'Connor Boy*.

out of で紙飛行機をつくる材料を示している。でも紙ナプキンは飛行機の材料にはならないのが普通。故に of は不可。このように何か特別な材料に一定の手間をかけて何か作る時には out of が好まれる。その手間のプロセスの部分を省略したければ from を使えば良い。

1-3 人間が別の存在に変化するという out of の例

(21) Furthermore, I was in the hell of a rage that this had to be so. I went for her like a tiger, and we made unrelenting animals out of [??of/*from/*with] each other for ten or fifteen minutes. —Masters, John (1954) *Bhowani Junction*.

女性にプールサイドでの性交渉を求められた男性は、彼女の無神経な誘いに怒りながらも、10分かそこら野獣のような激しい交渉をもった。

(22) You are about to sample a portion of the most unpredictable potion you will ever drink. One

sip of this fantastic brew will make you a new person. It may even make an animal out of [?of/from/*with] you! — Stine, Megan & H. William Stine. (1983) *The Formula for Trouble*.

これは魔法の霊薬を試飲することによって、本当に動物に変わるかもしれない、という文脈。(21)(22) はともに、人間が別のものに变化するのであるから out of が使われている。しかし同じように人間が別のものに变化するという文脈であっても、人間に関する普遍的な弱点 ((23) の戦争になると人間は平気で人殺しになる) に言及するときには of が使われる。この of は make a fool of の of と同じものと言えよう。

(23) We can't let the mutinous bastards undo everything we've fought for all these years. We have to fight back. War makes animals of [!out of/*from/*with] us all. —Saunders, Jean. (1986) *Golden Destiny*.

戦争は人間に理性を失わせ、野獣のように振舞わせる。ここでは of が普通である。上でのべた性交渉の例と比べると明白な差がある。両者とも比喩的に「野獣になる」とは言っているが、out of のほうは specific な場面のみに成立する、異常と思われるような性交渉の状況描写、of のほうは一般論として戦争は人間を獣にすると、人間のもつ普遍的弱点に言及する。むしろ、この of を out of に代えても間違いではない。話し手が一人ひとりの兵士の特定の戦闘場面を思い浮かべながら、一人の人間が理性を失って、兵士としての殺人を罪だと感じなくなる、というニュアンスが加わるだけだからである。of は本来「素材」に言及する前置詞であるので、人間を素材ごと、つまり丸ごと別の獣という素材に代えるというのである。その変化は永続的である。しかし、out of のほうは興奮して性交渉をしているときにのみ野獣的に振舞っているだけで、行為が終われば元の人間にもどる。単に一時的・特定の場面でのみ野獣になっているにすぎない。(22) は薬のために人間が野獣になるという永続的な変化をいうが、「変化」自体に言及するので out of, しかも specific な脈絡設定である。

1-4 その他の例

1-4-1 make a drama [of/out of] [5/10]

(24) He followed me into the kitchen where I made quite a drama of [?out of/??from/?with] searching for the address everywhere but where I'd put it. —Tepper, Sheri S. (1991) *Beauty*.

make a drama of は「大げさに言う」という比喩的な意味で用いられるが、単に一般的な慣用句にすぎない。*make a drama out of* も「大げさに言う」という比喩的な意味で用いられる。しかし10例の out of のうち半分は a big/great drama (2), such a drama (3) と特定場面で個人的な感情を付加している。

1-4-2 make a dress [of/out of] [4/4]

(25) How much would it cost to make me a dress of [!out of!/from]this beautiful gold satin? — Williams, Ursula Moray. (1942) *Gobolino the Witch's Cat*.

(26) Fran was a Grade-A dressmaker: Will said she could make a Sunday dress out of [?of/from/with] a feed sack if she had to. — Pershall, Mark K. (1993) *Stormy*.

(25) は単なる素材に言及したい脈絡なので of が選ばれている。(26) には「意外性」と「驚き」が含まれる。また、奇麗な Sunday dress を汚い feed sack からでも作るという、その対照性を表すのにも out of が最適である。from, with も可能であるが, out of ほど脈絡に合わない。

1-4-3 make a man [of/out of] [75/26] 「一人前の男にする」²⁾

(27) Stupid little crybaby, I thought I had a real son and I've got a mama's boy instead. But I'll make a man of [out of/*from/*with] him if it's the last thing I do. —de Vere White, Terence. (1961) *Prenez Garde*.

(28) Take Albert under your arm. Teach him. Train him. Make a man out of [!of/*from/*with] him even if it kills him in the process. —Eklund, Gordon. (1979) *Star Trek Adventures 8: Devil World*.

(27) は単に甘ちゃんを一人前の男にする, という場面である。対照性を強調して out of にしても何ら差し支えない。ここでは of を用いて, 「一人前の男にする」という結果を達成すること自体を問題とする。make a man of は全体があたかも複合動詞のように作用しているのでフレーズは make a man of | him のように 2 つの意味上のユニットにしか分割できないが, make a man out of him は out of に特別な焦点が当たるので make a man | out of | him の 3 つのユニットに分けられる。(28) では具体的に teach him, train him という「過程」つまり変化を明示しているので out of となっている。of も間違いとは言えないが, out of の方が良い選択肢である。

1-4-4 make a mess [of/out of] [507/14]

(29) God. That's me? How could I ever have made such a mess of [out of/*from/?with] my makeup! Hand me a tissue, darling, would you? —Gould, Judith. (1995) *Too Damn Rich*.

(30) "Somebody sure made a mess out of this place," Eklund said, shaking her head sadly. "They must have made off with everything that wasn't nailed down." —Austin, Richard. (1986) *The Guardians: Armageddon Run*.

(29) は単にメイクに失敗して崩れたと報告している。out of も可能であるが意味の変化が起こる。out of では, of の場合と同じ意味で強意的に使われることもあるが, 一度した化粧が事故や不注意などの理由で滅茶苦茶になったという文脈でも用いられる。(30) はある場所が盗賊

に荒らされて、何も残っていない状態 (mess) を驚きの気持ちをこめて描述している。

この他, *make a career [of/out of]* [57/55]; *make a case [of/out of]* [19/27] などがあるが解説は省略する。

2. 本来 of のみをとるもの

Make に続く目的語で本来 of のみが続くものは慣用性がきわめて高く、ほとんど修飾語なくそのままの形で用いられる。

2-1 *make [a nuisance/nuisances] of oneself* [161/0] 「やっかい者になる」

(31) She knocked again, but again I stayed where I was. Not wanting to make a nuisance of [out of/*from/*with] herself, she finally gave up and left. —Auster, Paul. (1989) *Moon Palace*.

コーパスにはなかったが, out of も可能である。informants との議論で分かったのは of の場合は「彼女」は迷惑になるからと思ってそこを立ち去った。話し手はこの事実を客観的な視点から歴史上の一コマとして報じている。out of にすると彼女の心理状態に焦点が当たり、迷惑を掛けたくないという気持ちが前面にでるのである。故に、命令文のように強意的脈絡では out of のほうが自然に響く：Don't you ever make a nuisance out of yourself again!

2-2 *make fun of* [1547/0]

(32) Anthony made fun of Paul's enormous, clumsy feet. Paul made fun of [*out of/*from/?with] Anthony's strange, clumsy way with the English language. Together, they made a good team. —Spenser, M.D. (1997) *Shivers 31: Shriek Home Chicago*.

この例にあるように, *make fun of* は「(誰か・何か) をからかう・馬鹿にする」という慣用句になっている。以下の例文にあるように out of も用いられるが、それはまったく異なる用法である：

cf. But Porter knew all the ginchiest people and he had a weird way of making fun out of [*of/?from/?with] boredom. Stag allowed Porter Hackett to fawn and use him, as long as the returns were worthwhile. —Ellison, Harlan (1983) *Spider Kiss*.

Porter はだんだんお金に困ってきている。しかし羽振りのよい人々と多く顔見知りである。Stag は金持ちで、Porter が自分にへつらって利用していることは十分承知しているが、彼と一緒にいると退屈な時間が楽しくなるという見返りがあるので、黙って利用されている。この out of は of に代えることはできない。

make fun of は慣用性が高く、fun を修飾する形容詞もきわめて少なく、merciless, cruel,

gentle, no, such, so much, など 7 例見つかっただけで1540例すべてそのままの形で用いられている。*She made such cruel fun of* [??out of/*from/??with] *everyone*. や *He made so much fun of* [??out of/*from/??with] *me*. とは言えても、**He made* [a lot of/big/great] *fun of me*. は非文。

2-3 make a fuss [of/out of] [194/2] 「大騒ぎする」

(33) Her mother was jealous because Gran made a fuss of [out of/*from/with] Alex and liked to take him out and show him off to her friends. —Bawden, Nina. (1988). *The Findings*.

(34) “Could I have some sugar?” I said faintly.

“Sugar?”

Honest, you’d have thought I’d asked for arsenic. Frances made a great fuss out of [of/*from*/??with] looking for it. —Taylor, John Robert. (1990) *Double Exposure*.

(33) において of は単に「騒ぎたてる・必要以上にかまう」という意を伝えるが、out of にすると話し手の側におばあちゃんを責めるという意図が感じられるようになる。物語の中で作者は中立の立場から描写することが多いので out of の例は少ない。他方 (34) では登場人物の「私」が話し手なので、out of によって不快感を露にしているのである。of も可能だが、感情を抑えた表現となるので、ここでは out of のほうが適切である。

3. [of/out of] いずれも可能だが いずれか一方が多いもの：

make an ass [of/out of] [13/61] 「(人)を馬鹿にする」, *make a big/great deal* [of/out of] [69/165], のほか、統計は省略するが、*make much/nothing/something* [of/out of] など例は多くある。

3-1 make a [big/etc.] deal [of/out of]

make a big/etc. deal out of は慣用性が高く deal の形容詞としては165例のうち実に159例に big が使われ、残りは great (3), huge (2), enormous のみであった。「大げさに騒ぎ立てる・問題にする」の意。形容詞を伴わない *make a deal out of* という言い方は存在しない。

他方、同じ意味で用いる *make a big/etc. deal of* では deal の形容詞としては、big (63), great (6) がある。表面上は似ているが全く別のものもある。*make a (great/good) deal of* は *He made a good/great deal of money*. に例示されるように、大概「多量の」という意味で使われ、本論に無関係。それでは例を見てみよう：

(35) Mrs Weldon seemed, in many ways, as much his own mother as Matilda, and she made a great deal of [!out of/*from/??with] him, dressing him in good clothes and teaching him manners. —Horner, Lance. (1971) *Flight to Falconhurst*.

(36) The prosecution made a great deal of [out of/*from/?with] the fact that she had given one reason for purchasing arsenic to the Glasgow chemist —Nicholas, Margaret. (1984) *The World's Wickedest Women*.

(37) A fleet of little sails swept along the northern shore, making a great deal of [out of/*from/?with] very little wind. —Wrightson, Patricia. (1965) *Down to Earth*.

(35) は「騒いで大いに世話をやいた」、(36) は「大いに問題にした」、(37) は「上手に利用した」の意。(36) では out of も可能。このように文脈によって大きく意味が変化するのは make a great deal of が phrasal construction として分解できない単独のイメージを伝えるからである。make a great deal out of では、make a great deal と out of の部分はそれぞれ独立した意味ユニットと感じられるので前者のような多義性は持ちえない。

3-2 make [a friend/friends] [of/out of] [85/6]

(38) I like her. I could make a friend of [!out of/*from/?with] her. I know why Michael loves her. —Stubbs, Jean. (1987) *A Lasting Spring*.

(39) “So,” he said with a quick laugh, “she took you into her confidence, did she? After all these years? Just decided to make a friend out of [of/*from/?with] you. You mean to tell me she just walked right up to you and started crying on your shoulder?” —Lewis, Arthur Bernard and Leonard Katzman. (1986) *Dallas 8: This Christened Land*.

(38) の of の例では「友人になる」ことが特別注目に値する事柄とは考えられていない。それは人間社会において余りストレスを感じさせる行為でないからである。ところが (39) の out of の文脈では「彼女」が突然、「あなた」を友人にしたことが、不自然であり、信じられないというニュアンスを含んでいる。このように of と out of の両方が可能なときでも、文脈に適合するほうが選ばれている。out of を使うとき、話し手は「状態変化」に特別な注意を払っているので、何らかの驚きをもって、余り普通であるとは考えられない specific な場面を描いているのである。

4. 本来 out of のみが許されるもの

4-1 make something out of nothing [0/11]

「何もないところから何かを作り出す」というときは状態の変化が余りにも明白に表れるので out of しか用いない。of は不可。実際、このフレーズ自体、固定化した定型句になっている。

(40) Don't make something out of [*of/?from/?with] nothing. Don't ruin this evening. —McCar-

thy, Gary. (1985) *Powder River*.

これは相手にちょっとしたことで疑いをかけられた女性がデートの相手に言っている言葉。
something と nothing の対照があるので、out of は自然な選択。

これに対し、「一角の人間になる」という *make something [of/out of] oneself* [106/13] には of
が多く慣用性が高い。しかしながら努力して名のある人物へと成長する変化に注目する場合は、
やはり out of が用いられる。

4-2 make [an enemy/enemies] [of/out of] [0/7]

「敵をつくる」というのはやはり状態の変化がはなはだしく、of は不適當である。

(41) She should have wrung the truth out of old Netuh, not sent him off to bed in disgrace. It
would make an enemy out of [?of/?from/??with] him, when they might need every friend
they had. —Saunders, Jean. (1986) *Golden Destiny*.

(42) A good warrior, his teachers taught him years ago, never makes enemies out of
[?of/?from/??with] friends. —Faucett, Bill. (1987) *A Crossroads Adventure in the world of
Steven Brust's Jherag: Dzurlord*.

5. おわりに

以上のべてきたように、[of/out of] の使い分けは、「材料」であるとか「原材料が元の形をとどめるとかとどめない」とかによって決定されるのではなく、話し手がその特定の脈絡の中で聞き手に訴えたい事柄が何かによって選定されるのである。にもかかわらず、辞書の説明は1967年の Wood の解説から40年を経た今も、ほとんど進歩がない。実際に米国・英国でごく普通に受容られている、*The house is made from logs*. という不可とする日本人教師も多いことであろう。それは文法と実際に用いられている語法とをまったく別のものとして取り扱っているからである。英米では *Collins COBUILD English Language Dictionary*. など、すでに80年代からコーパスに基づいた辞書づくりを始めている。その専門ページというべき、*Collins COBUILD Dictionary of Idioms*. (2002), *Longman Dictionary of Phrasal Verbs*. (1983) などをもみても、*make [fuse/a man/fool/a friend] of* などと単独の例を項目として羅列するのみで、out of と of の比較の解説は皆無である。コーパスに基づく辞書の出版は相次いでいるが、辞書編纂の先進国の英国で出版され、しかも外国人の英語学習者をターゲットにするものにさえ、満足な語法的な説明はされていない。文法・語法に敏感な non-native speaker の英語教師の頼るべき文法書・語法書はいまだに不足している。前置詞関連の語法書も大まかなものはあるが、本稿のような細かな区別に関しては皆無である。コーパスに基づいて、外国人英語学習者・教育

者に分かり易く原理的な解説を行うことが大切ではあるまいか？

注

- 1) この例はおそらく Wood の *a drink made of orange juice, sugar and water* にヒントを得て作成したのであろうが, informants にとっては変な英文なのである。「間違いではないが, 違和感を覚える英文である。ここでは using が最も自然であるが with も可」という反応であった。
- 2) make a man out of といっても文字どおり, 金属から人間型ロボットをつくるという脈絡もある:
Here is what I want you to do. You must make me a man out of [*of /from/?with] metal who can defend us against attack from our enemies —Eklund, Gordon. (1979) *Star Trek Adventures 8: Devil World*.

使用コーパス

主として1970年以降の英米のエッセイや小説をランダムに集めたもので4780冊余りからなる私的コーパス。多くの児童書を含む。そのサイズは約2億3000万語で2億語の The British National Corpus よりも大きい。

使用ソフトウェア

赤瀬川史朗氏の TXTANA Version 2.52。語法研究用コンコーダンサーでインターネットで入手可能。

References

- Courtney, Rosemary. (1983) *Longman Dictionary of Phrasal Verbs*. Longman.
Sinclair, John. ed. (1987) *Collins COBUILD English Language Dictionary*. Collins.
Sinclair, John. ed. (2002) *Collins COBUILD Dictionary of Idioms*. Collins.
Summers, Della. (2004). *Longman Dictionary of Contemporary English, 4th edition*. Longman.
Wood, F.T. (1967) *English Prepositional Idioms*. MacMillan.
小西友七. (1976) 『英語の前置詞』大修館.
小西友七 (編). (1974) 『英語前置詞活用辞典』大修館.
小西友七, 南出康世 (編). (2001) 『ジーニアス英和大辞典』大修館.
竹林滋, 小島義郎, 東信行 (編). (1995) 『カレッジライトハウス英和辞典』研究社.

(おかだ・あきら 外国語学部教授)